

広がる NIE

実践例で現場の不安解消

アドバイザーが後押し

教育に新聞を活用するNIE活動への関心が高まっている。7、8月の夏休み期間中、県内の小学校10校以上で新聞活用の意義や実践例を紹介するNIEに関する校内研修が行われた。県教育庁は7月に行われたNIE全国大会に職員を派遣し、所管する県立総合教育センターの短期研修講座にNIE研修を盛り込むなど初の取り組みを展開した。新聞社は学校の要望を受け、児童向けに記者の出前講座を多数開催し、学校、行政、新聞社の連携による協力体制が県内でも整いつつある。



新聞を使った実践を紹介する甲斐崇 NIEアドバイザー（右）＝8月23日、北谷町立浜川小学校

NIEが広がる理由の一つは言語活動の充実を掲げた学習指導要領にある。2011年度に完全実施となった小学校を皮切りに、中学校は12年度、高校は13年度から授業で新聞を取り上げる機会が増えるが、現場には戸惑いもある。富里小の目取真康司教頭は「具体的な実践方法が分からず、どう取り組めばいいのか分からなかった」と話す。



教師の不安を払拭し、県内での広がりを後押ししているのがNIEアドバイザーだ。夏休みに各小学校で実施された研修では、甲斐崇浜川小教諭が7校、佐久間洋伊平屋小教諭が3校で講師を務めた。

甲斐教諭は全国的に広がるNIEの流れを説明しながら「すぐに記事を読ませても食いつかない。写真や4コマ漫画を題材に親しんでもらう方法もある」とアドバイザーし、新聞活用の手軽さを伝えた。また「新聞は子どもたちの社会性や他者性を身に付ける有効な教材となり得る」と強調した。

佐久間教諭は「新聞を日常的に使い、関心を持たせることが大切」と強調した。記事について意見を述べる「1分間スピーチ」、登校して10分間新聞を読む「新聞タイム」など、伊平屋小の取り組みを紹介した。NIEで「読む、書く、話す力」が身に付き、児童らが成長している様子を報告した。

宜野湾小の前田佳子教諭は「ワークショップを実際に行ってみて、児童のつまずきどころや支援のポイントが分かった」と研修の成果を述べた。

7月に福井で開かれたNIE全国大会では、学校全体で取り組むためのNIEの教材化、カリキュラム化の必要性が示された。生きる力を育み、思考力を養う教材としての可能性を引き出すためにも、学校現場、教育行政、新聞社のより強い連携が必要不可欠となる。

(大城三太)